

玉津校区タウンミーティング開催報告

【日 時】 令和5年2月7日（火）19：00～20：30 【場 所】 玉津公民館 2階大ホール

【参加者】 玉津校区連合自治会長など全26人 ・ 傍聴 2人

市長、公民館長

- 【次 第】 1 開会 2 挨拶（玉津校区連合自治会長）
3 市長挨拶・事業説明（別添資料）
4 事業説明：テーマ 「地域活性化～元気だそう！玉津～」
5 まとめ・閉会

概 要

【自治会長挨拶】

日ごろ、玉津校区内で様々な問題が発生している。本日の参加者は将来に向けて頑張っている方もおられる。しかし、世の中では、自治会離れやコロナの影響もあって人離れが進んでいる。皆さんが頑張る中でもっと活性化できる校区にしていきたい。

活動報告① 玉津連合自治会

- ・ 11ブロックの地区自治会があり令和4年4月現在、単位自治会は全64団体で構成されている。
- ・ 「あたたかい 手と手を結ぶ いきいき玉津」をスローガンに定め活動している。
- ・ 自治会の目的を達成するために9つの部（総務・文化・体育・環境・青少年育成・交通安全・人権擁護・防犯・防災）を設置し、各部が行事を催している。
- ・ 例年11月の文化祭（近年はコロナ禍で制限あり）は、小学校PTAと協力し展示、舞台発表、バザーを行っている。
- ・ 1月上旬の新春ふれあい会は、3年ぶりに実施でき、小学校を起点に3km、5km、9kmのコースをウォーキングで楽しんだ。地元小中学生らが家族、友達を連れて参加しており、100人以上の参加者でにぎわった。
- ・ 運動会は400～500人が参加する最大規模の行事であるが、コロナにより3年中止している。今後、以前のように再開できるか検討している。

- ・ ひまわり祭りは、ウィズコロナの時期に公民館との共催で新しく実施した。渦井川河川敷に種を蒔き、ひまわりを観賞するとともにバザーを行った。
- ・ コミュニティ・スクールの一環では連合自治会がボランティアとして「玉津小学校タウンウォッチング」を行い、6年生と一緒に校区を歩いて地域を観察した。危険箇所や防災施設、避難経路を地図で作成した。
- ・ 校区の人口（約8,500人）や世帯数（約4,000世帯）はほぼ横ばいで推移しているものの、自治会加入は、5年間で約100世帯減少している。（令和4年3月末時点の加入率は45.7%）
- ・ 今後の課題として、自治会員の減少や役員の人材確保、コロナによる活動の低下、各種団体との連携がある。

活動報告② 西条東中学校

「新しい制服制定の意味と経緯について」

- ・生徒会は、「みんなが過ごしやすい学校にしよう」を目標の一つにしている。
- ・一昨年、多くの生徒から制服の変更を検討してほしいという要望があった。
- ・その後、生徒会と学級委員が話し合い、この要望を生徒総会で提案し、全校生徒で話し合うことにした。
- ・生徒総会では、寒さや暑さに対応できる機能性を重視したものが良い、冬は寒いのでスカートもしくはズボンを選べるようにしたい、学ランはホックが息苦しく重くて動きにくい、またLGBTQの観点からも現在の制服は見直した方が良いなど、多くの生徒から意見が発表された。
- ・そして、生徒総会での賛成多数を受け、制服変更の要望を職員会議で提案した。
- ・近年全国的に多くの学校が制服を変更しており、市内では丹原東中学校はスカートもしくはズボンを選択でき、東予東中学校はブレザータイプの制服が採用されている。
- ・市内の高校でも制服の見直しが行われており、現在中学校で着ている制服は高校では使用できなくなるのが現状。
- ・教職員の協議では、地域や社会の状況と、何より生徒たちの思い、提案に至るまでの行動を認めたいと考え、制服の変更を前向きに検討することとした。

- ・昨年4月、PTA総会で承認を受け、制服検討委員会（PTA常任理事、生徒会役員、教員）を立ち上げ、検討を進めた。
- ・同時期に玉津小・飯岡小の4～6年生の家庭へアンケート調査をした結果92%が変更賛成。変更時期は63.6%が「令和5年4月から」を選択。
- ・また、新制服に動きやすさや体温調節の機能性、LGBTQに配慮した多様性、洗いやすさなどの耐久性が求められていることがわかった。
- ・制服会社からコンセプトや特徴の説明を受け、生地や着心地、デザイン、安全性を確認し、5回の制服検討委員会を経て、新制服は校旗の色である紫紺と西条の水をイメージした青が織り込まれた2つの案を作成。
- ・2案の比較動画やサンプル展示により、西条東中生、玉津小・飯岡小4～6年生からの投票で新制服を決定した。
- ・みんなが過ごしやすい学校にするために、制服の他、頭髪規定に男女の区別をなくした。
- ・今後はより一層、全校生徒が一人ひとりの個性を認め合える学校生活を送られるよう、あいさつ運動や人権学習を進めていきたい。

活動報告③ うずい祭り実行委員会

- ・かつての「玉の子」（玉津小学生）が大人になり、地域で家庭を持ち、玉の子の親となることで、数十年ぶりにPTAや地域活動で顔を合わせるようになった。
- ・約30年前に運動会の種目として、全校生徒で輪になって踊る「玉の子音頭」があり、記憶も曖昧だったが、コロナ禍での元気づけの意味も込め復活させようという気運が高まった。
- ・公民館の協力を得ながら集会をし、「玉の子音頭復活委員会」と名付け活動を始めた。テーマは「原点回帰」「ソーシャルキャピタル」（地域の関係づくり）目的は「玉の子音頭を復活させて、発表の場を作り踊る」。
- ・目的達成のために一年間の事業計画を立てた。そして、7月から毎月集まって活動する中で、音源と踊りの再現がほぼ完成した。
- ・イベントを開催するにあたって、予算がないため、まちづくり活動アシスト事業助成金を活用した。
- ・まだ大きなイベントはできていないが、「プレうずい祭り」を令和4年12月に公民館で実施した。
- ・令和5年8月には「うずい祭り」の本番を小学校校庭で予定している。
- ・それに向け、協力者の要請、予算の準備を進めている。地域の関係づくりの点から、地元青年団などにも参画いただく予定。
- ・単にお祭りをするにとらわれず、多様なメンバーを巻き込むことでグループの強さを活かし、地域づくりに貢献したい。

活動報告④ 玉津小学校

コミュニティ・スクール

- ・地域とともにある学校づくりを目指すもの。
- ・学校を核として、地域の大人と子どもがともに学び合い、関わり合うことを通して、地域コミュニティを活性化させることを目標としている。
- ・地域、保護者の方に教育活動に携わっていただき、協働することで学校が抱える課題の解決を目指す。
- ・本校は、令和3年度に「西条市コミュニティ・スクール」のモデル校に指定され、4年度は実践校として取り組んでいる。
- ・6年度は市内全ての小中学校に導入される流れとなっている。
- ・教育目標「キラキラピカピカ みんなとあくしゅ えがおとやるきで じぶんにちょうせん」の具現化を通して、玉津を愛する子を育てる。
- ・そのための2本柱が、①学校の教育活動の支援（地域人材の活用により、学校が抱える教育的課題の解決を目指す）②地域人材育成を目指す体験学習（地域の良さを取り入れた学習を通して、未来の地域人材を育成する）
- ・玉津を一度出ても、帰ってくる子を育てたいと考えている。

①学校の教育活動の支援

- ・地域の方々に学校に来ていただき、「ミシンお助け隊」「玉津花いっぱい作戦」「1年生見守り隊」などの活動にご協力いただいた。
- ・「ちょこっとボランティア活動」は保護者や地域の方々が普段の授業における学習支援を行っている。複数の大人が加わることで、子ども達の安全安心に繋がるとともに、教職員の負担軽減が図られている。

②地域人材育成を目指す体験学習

- ・「防災タウンウォッチング」は6年生が地域の方々とともに防災の視点を持って観察し、防災マップを作成、掲示している。
- ・「しめ縄づくり伝承教室」は5年生が老人会の皆さんにしめ縄づくりを教えていただき、お年寄りと触れ合える機会となった。
- ・「玉津クリーン活動」は3～6年生が渦井川沿いや飯積神社などの清掃やひまわり畑の草引きを手伝った。地域のために働くことで、地域の一員としての意識を高めた。
- ・また、日ごろの感謝を込めて全学年が暑中見舞いや年賀状を地域の方々へ送っている。

- ・事業を通して、地域の方々が学校の教育活動に関心を持ち、児童の学習支援によって子どもの役に立つことができると実感いただいている。
- ・児童や教職員にとっては、地域の方々とのコミュニケーションが増え、児童には地域への愛着が強まっている。
- ・今後の課題として、活動中の方が一事故による補償に関する予算の確保や、地域と学校を繋ぐ「地域コーディネーター」の人材確保が必要であると感じる。

活動報告⑤ 玉の子文庫

- ・玉津小学校児童へ読み聞かせをする団体で、保護者の有志で2000年に設立した。
- ・子どもが小学校を卒業しているメンバーも多く、現在37人で活動している。
- ・主に小学校、公民館、児童館で読み聞かせや人形劇を行っている。
- ・昨年度、活動が認められ「小さな親切実行賞」をいただき、月間愛媛ジャーナルにも掲載された。
- ・公民館からの相談もあり、今後は高齢者への読み聞かせもしようと考えている。また、保育園や幼稚園への出張も考えている。
- ・コロナ対策や時間的制限がある中で、できる限りの活動をしていきたい。
- ・玉津小学校児童には知ってもらえているが、保護者の認知度はまだ低いように思われる。一緒に活動できるメンバーが増えると良い。
- ・子どもから「人形劇って何？」と聞かれたことがあり、コロナ禍で演劇などを観賞する機会が減っていると思う。
- ・ぜひ、子ども達に心が豊かになるような本物の芸術に触れる機会の創出を学校や市にお願いしたい。

活動報告⑥ 玉津公民館

新しい地域づくり（公民館の取り組み報告）

- ・あらゆる世代を対象に事業を計画、実施している。
 - ・中学生が参加した事業として、愛媛新聞社のご協力によって新聞づくりに挑戦した「ジュニア未来塾」、音楽分野で功績のあった卒業生を招いた「輝きコンサート」、少年式を迎えた生徒が公民館で奉仕活動とJICA四国とのオンライン講座を行った。
 - ・「玉津にぎわい市」では西条農業高校生が農作物の産直市を行った。
 - ・小学生関係では、地域未来塾「玉津教室」や玉津スポーツ教室の他、NPOアフタースクールとの連携、カゴメ株式会社によるオンライン授業、JAL折り紙ヒコーキ教室などを行った。
 - ・これらは、児童生徒と地域との繋がり強化、やがて地域を担う人材育成を目指して実施している。今後も子どもが参加しやすい事業を進めたい。
-
- ・「玉津ぐるぐる交歓伝言板」では、3Rの取り組みとして「ゆずります・ゆずってください」の伝言を募り、現在30組成立した。
 - ・今後、フリーマーケットを開催するなど、校区内で循環型社会構築の雰囲気高めたい。
 - ・渦井川河川敷のひまわりは、元の世話人から公民館が承継し、玉津小学生にも種蒔きや除草に参加してもらった。8月11日には、ひまわり祭りを開催し、約600人が来場した。
 - ・地域の3世代交流事業として継続したいが、マンパワーの確保と財源確保の課題がある。
 - ・同じ名称を持つ縁で、宇和島市の「玉津公民館」との交流を始めている。両地区で軟式野球チームの交流試合や、防災に関する意見交換会を予定している。
 - ・昨年度末から地域自治組織設立に向けた検討準備委員会を組織し、話し合いを始めた。現在地域づくりのアンケートを準備しており、新年度に実施する予定。
 - ・公民館が地域づくりの総合的な拠点となり、地域が活性化するような取り組みを続けていきたい。

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
大洲への防災視察研修	
<p>公民館の活動で、先日大洲市の三善公民館へ防災研修に行った話を聞きたい。</p>	<p>公民館協力委員会の事業として、防災の先進地として大洲市の三善公民館へ視察に行った。平成30年7月豪雨発生時、日ごろの対策のおかげで被害を最小限にとどめた地区であり、玉津でも参考になることを学んできたので、今後の防災活動に活かしていきたい。</p>
コミュニティ・スクールの推進	
<p>玉津のことをよく知り、子ども達にこの地域の歴史を教えてあげてほしい。 コミュニティ・スクールのことも皆さんにご理解いただき、家族にも伝えてもらって、子どもの祖父母の代にも学校に来ていただけるように進めてほしい。</p> <p>現役の保護者だった頃にPTAなど学校関係の世話をしており、卒業後数十年経っているが、子どもの同級生等が自分を覚えてくれていたことが嬉しかった。 人がボランティアで動くには、プラス面があるか（やって楽しいか）・マイナス面がないか（やらないと損するのか）を判断すると思う。 事業として動かす職員の皆さんには、熱意をもって関わる人の能力が発揮できるような面白い仕掛けをつくってほしい。</p>	<p>玉津小学校が先行して実施しているが、他の学校でもこのように進めていけると良い。 子ども達が地域の皆さんと関わることで地域に愛着を持って、市外に出ても、また帰ってきて次の代にバトンタッチできるような、良い循環を形成してくれている。 補償（保険）の予算については、令和5年度当初予算への計上を要求している。サポート体制をしっかりと整えたい。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
公民館活動の助成	
<p>公民館で新たな事業をするにあたって、助成金情報を集めながら実施しているが、現在の予算では動きにくいと感じる。財源を市に考慮いただきたい。</p>	<p>公民館が地域づくりの拠点になるという発言があり、企業を巻き込んだ事業も素晴らしい。他の公民館にも、ぜひ広げていただきたい。資金面は、紹介できる制度を行政からもアプローチしたい。また、地域づくりでは職員もしっかり連携していきたい。</p>
その他：資源の循環	
<p>今後、クリーンセンターを整備する際に、CO₂を回収できるようにしてほしい。農作物の生育過程でCO₂を必要とするので、市内のハウス栽培で有効利用できるように考えてほしい。 また、海苔の生産量が減ってきている。生海苔が獲れるように対策を考えてほしい。</p>	<p>西条市は、SDG s 未来都市に選定されており、環境・社会・経済の側面から様々な課題にチャレンジしていきたい。</p>
<p>【まとめ】 <市長> 進め方やここに至るまでのプロセスが素晴らしいと感じた。生徒会の運営は、社会でも参考になるような取り組みで感心した。皆さんが主体性を持って自分ごととして受け止めながら活動できている印象を受け、玉津校区は先行しているように感じた。子ども達や孫世代にバトタッチできるよう、考えながら運営していただきたい。行政も伴走する。 <連合自治会長> ここで一番大事なのは、コミュニティだと思っている。各団体が立派な考えを持って、実行してくれている。続けていくためには皆さんのご協力が必要。今後ともよろしく願う。 <当日の様子></p>	

